

上野歯科医院
口腔内診査状況
2018

～歯科疾患実態調査～

厚生労働省が5年に1度行う調査です。

この調査は、日本の歯科保健状況を把握し、8020運動（歯科保健推進事業等）の効果についての検討や、健康日本21においての目標達成度などの判定を行います。

* **DMFT**: 集団における**永久歯**の虫歯の状態を知るために用いられます。

D: 治療が必要な歯

M: 虫歯が原因で抜いた歯

F: 虫歯が原因で治療した歯

* **d(m)ft**: 乳歯列に用いられます。

d: 治療が必要な乳歯

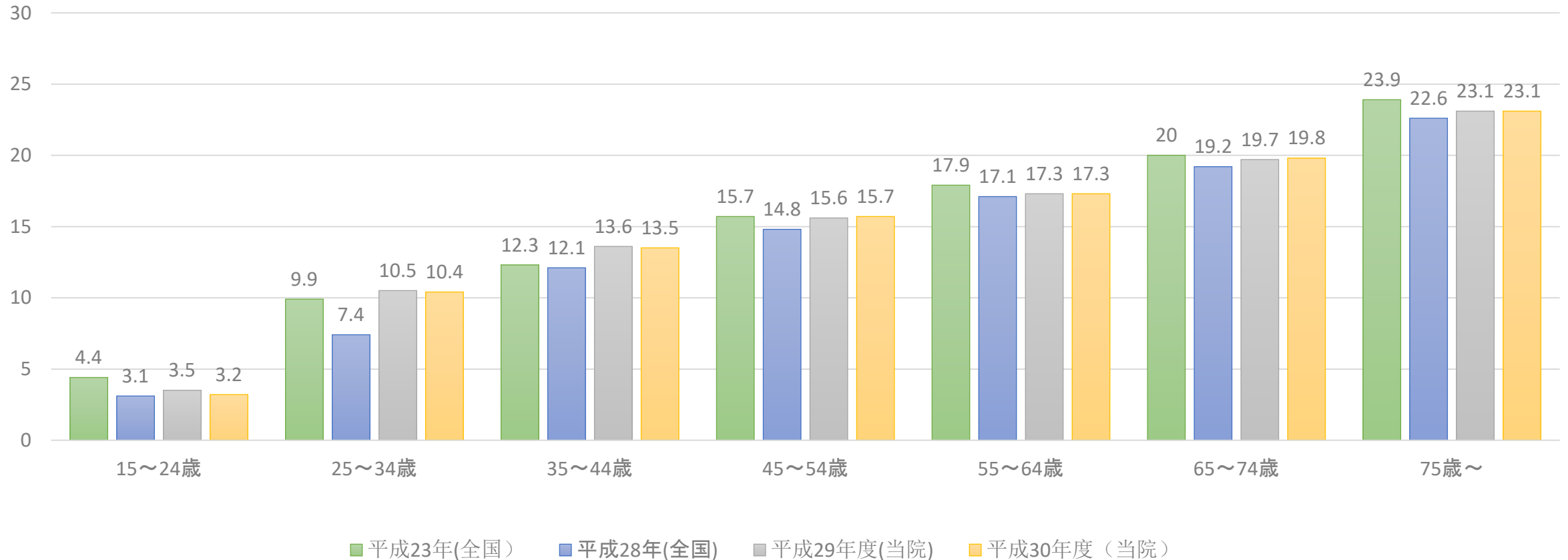
m: 虫歯が原因で抜いた乳歯

f: 虫歯が原因で治療した乳歯

歯科疾患実態調査と当院のデータを比較し、さらには当院の初診時とメンテナンス時のデータの比較検討を行います。

歯科疾患実態調査と当医院の比較

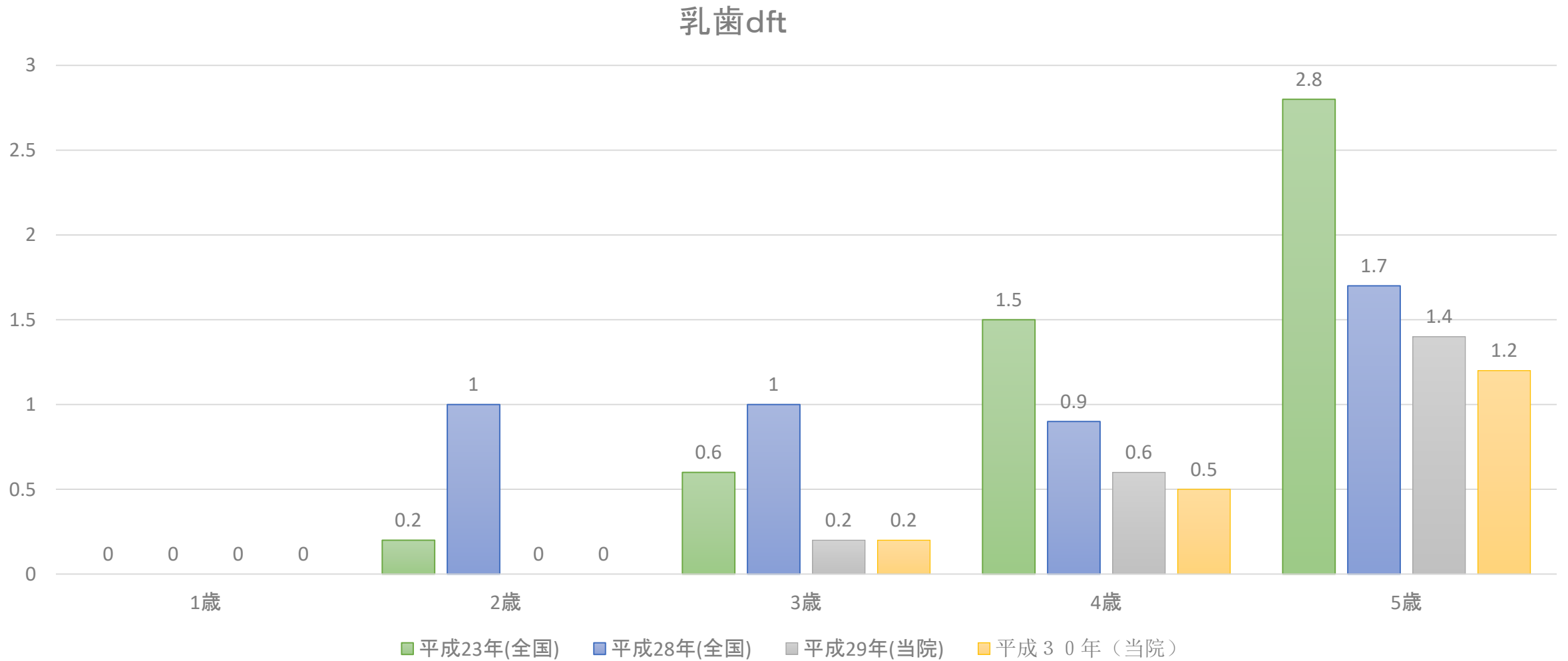
永久歯DMFT



考察 ～成人編～

- 当院の患者さんのDMFT平均は、昨年に引き続き平成23年の全国平均値より45歳以上の方は良い結果となりました。しかし平成29年の当院のデータと比較すると45歳～54歳、65歳～74歳の虫歯の状態は悪くなっていました。また、平成28年の全国平均は全年齢層で悪い結果となり、これは当院に受診した時には既に歯の治療をされている方が多いため、このような結果となりました。
- 当院では新たな虫歯を作らない、既にある虫歯は進行させないようにし、必要最小限の治療で取り組んでいきたいと考えております。
- 歯科疾患実態調査の全国平均や前年よりも良い結果が得られるように、今後も日々の予防に取り組んでいきたいと思っております。

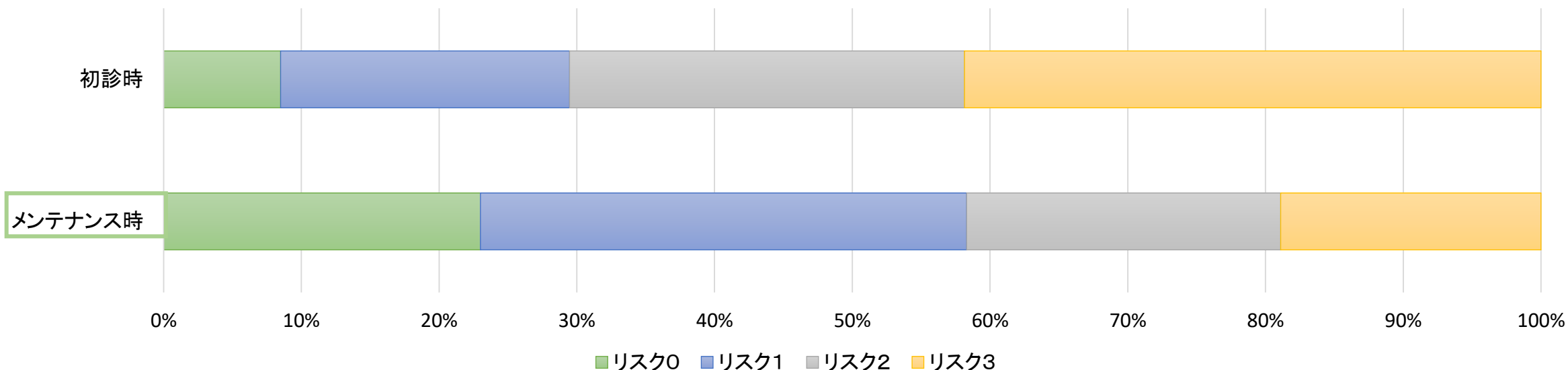
歯科疾患実態調査と当医院の比較



考察 ～小児編～

- 当院の5歳以下のデータが歯科疾患実態調査のdftデータより、低い結果が得られました。つまり全国平均より当院に通院されている患者さんの方が虫歯になっていないということです。このようなデータが取れたのは衛生士としてとても嬉しいです。
- また、平成29年の当院のデータと比較しても昨年のdftは低い結果となりました。
- 1～3歳までのdftに対し、4歳以降に数値が上がるのは隣接面に虫歯が出来てしまい、歯科治療を行うようになるためです。
- 隣接面つまり歯と歯の間の虫歯はデンタルフロスの使用により予防することが出来ます。また、4歳ぐらいになればフッ化物洗口液もできるようになるので導入するといいでしょう。

プラーク量



リスク0はプラークの付着量が全体の15%未満

リスク1は15～30%未満

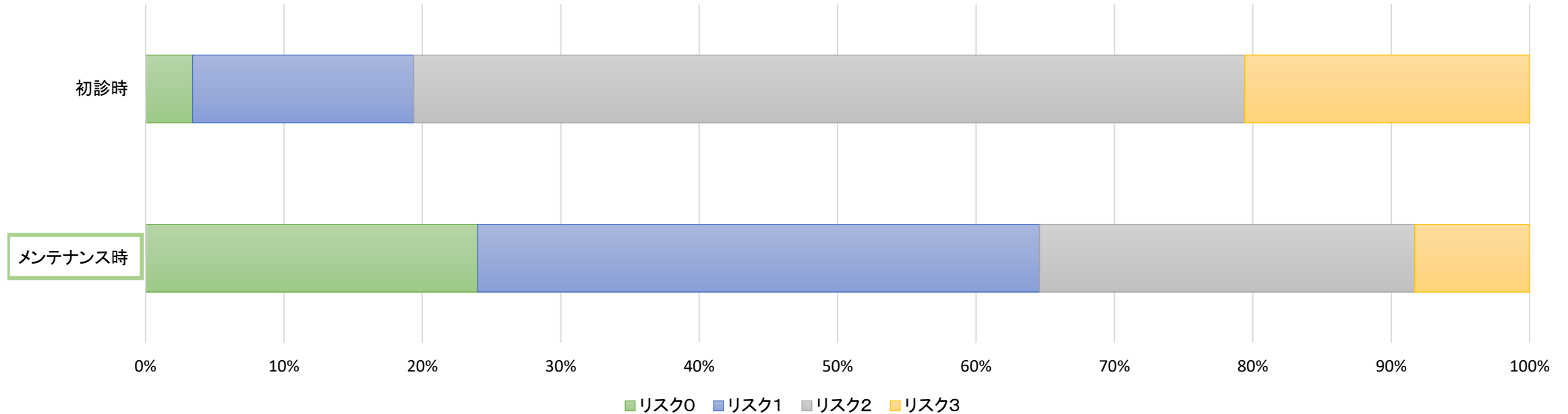
リスク2は30～50%未満

リスク3は50%以上を表しています。

プラークとは、食べかすではなく細菌の塊で1mg中に10億個の細菌が住んでいると言われています。うがいでは除去出来ず、歯ブラシや歯間ブラシデンタルフロスを使用することで除去することが可能です。初診時はプラークが多く付着している方が多く、メンテナンスに移行する頃には上手に磨けるようになります。また歯間清掃用具を使用する方が多くなり、プラーク量が減少します。



フッ素使用状況

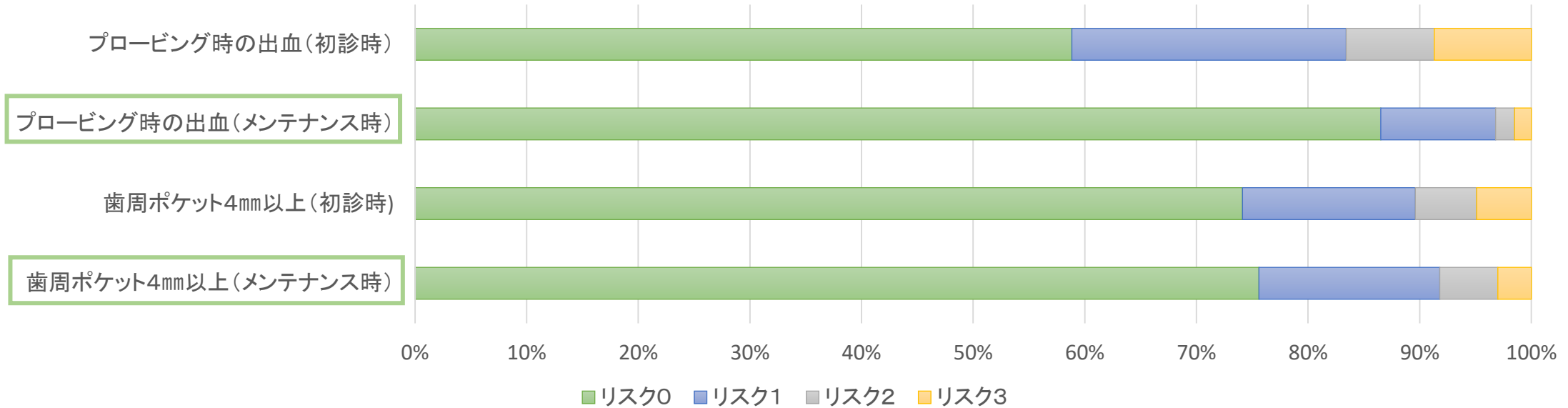


- リスク0はフッ素を家庭、診療所の両方で使用している
- リスク1度行われている(今年から5年おきには家庭、診療所のどちらかで使用している)
- リスク2は家庭、診療所で時々使用している
- リスク3はフッ素を全く使用していない



フッ素は、歯の脱灰を抑制し、再石灰化を促進します。また、虫歯菌の活動を抑える作用もあり、虫歯予防には欠かせない成分です。歯科医院では虫歯予防の専門的処置として、フッ素塗布が行われます。家庭ではフッ素配合のハミガキや洗口液を上手に活用し、積極的に虫歯予防をしましょう。

歯肉の状態



プロービングとは歯肉の検査のことで、出血は歯肉の炎症を表しています。

リスク0は歯周ポケット4mm以上、出血する部位が10%未満

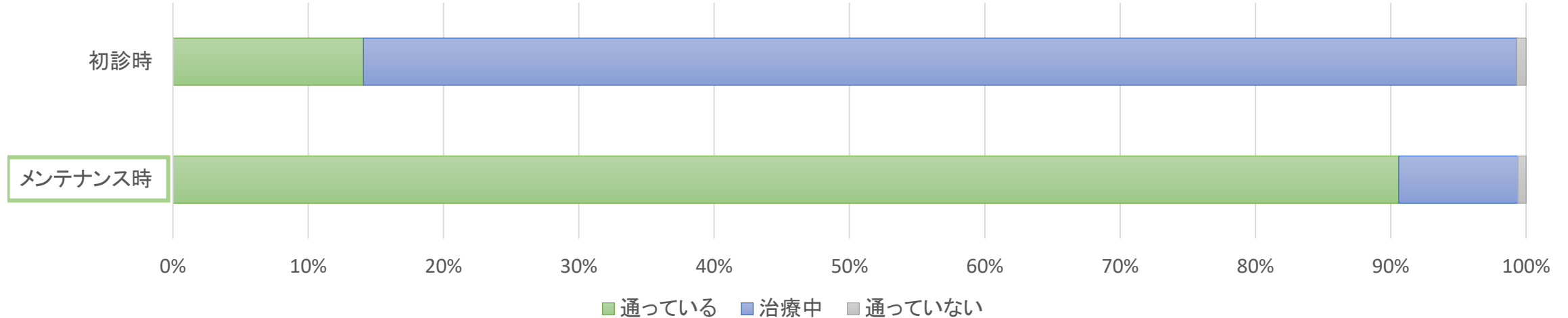
リスク1は10～30%未満

リスク2は30～50%未満

リスク3は50%以上を表しています。

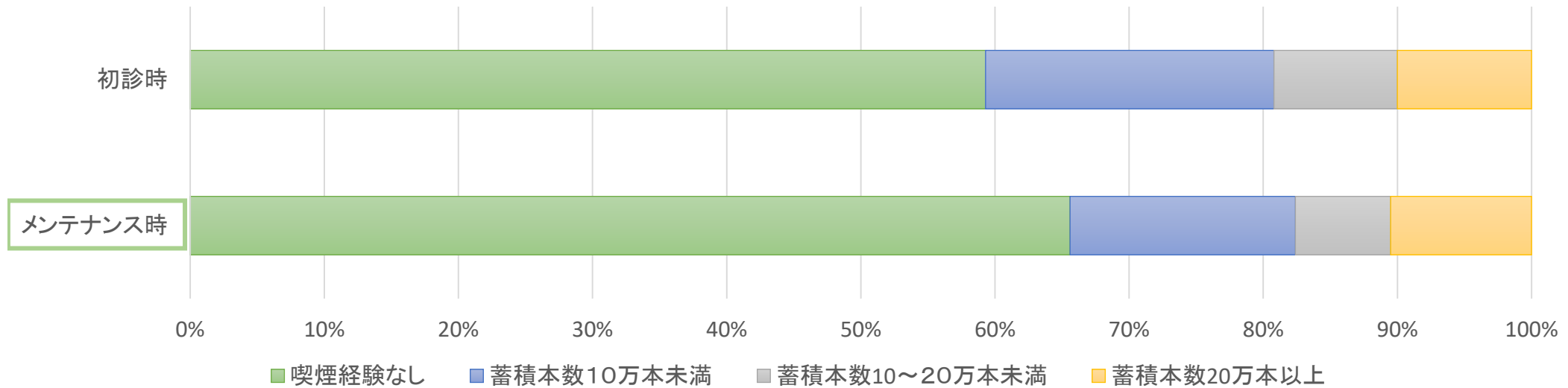
初診時よりもメンテナンス時の方がリスク0の方が増えています。これは定期的にクリーニングを受け、歯石やバイオフィルムの除去を行っている事と、ホームケアが確立されたためと考えられます。

メンテナンスに通っているか



初診時には定期的に歯科医院に通いクリーニングを受けるという習慣がない方が約9割を占めています。メンテナンスでは虫歯や歯周病のチェックを行い、クリーニングや歯磨きのアドバイスを行います。定期的に通って頂くと口の中がきれいになり、歯磨きへのモチベーションも維持できます。3～6か月に一度はメンテナンスを受けましょう。

喫煙本数



タバコの煙には数千もの化学物質が含まれていて、そのうちニコチンや発癌性物質などの有害物質は200とも300とも言われます。

喫煙者は、口臭・ヤニがついて汚いだけでなく、歯周病にかかりやすく、ひどくなりやすいので、更に治療しても治りにくいことが解っています。タバコを吸っていると歯肉の腫れや出血が目上抑えられ、患者さん自身が歯周病に気づきにくくもなります。



～まとめ～

いつもご来院ありがとうございます。

2018年度も当院の患者様データをもとにお口の状態の分析を行いました。
皆さまがお口の健康に関心を持つきっかけになればと思います。

歯を失わないように予防することは充分可能です。

将来、健康な歯が残っている方が楽しく会話ができ、好きなものが食べられることは全身の健康維持にもつながるのではないのでしょうか。

健康な歯を維持していくためには、日頃のホームケアと定期的な検査も必要です。変化する虫歯リスク、歯周病リスクを唾液検査やレントゲン写真、口腔内写真などを行い、ご自身のリスクを把握した上で健康な歯を維持するためにリスク管理していきましょう。

2019年も皆さまの健康維持をサポートできるよう頑張ってお参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

上野歯科医院